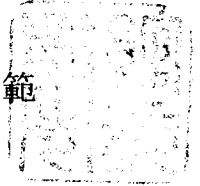


函 新 外

平成20年10月17日

国土交通省道路局長 様

函館市長 西尾 正範



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありました標記について、別添のとおり回答します。

函館市土木部新外環状道路整備推進室

主査 湯浅 隆幸

TEL 0138-21-3442

E-mail yuasa.t@city.hakodate.hokkaido.jp

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点，要望や提案など

北海道函館市

道路整備については，高度経済成長を経て，積極的に道路資本ストックの形成が行われてきましたが，近年は社会経済情勢が大きく変化し，少子高齢化社会の到来，地球温暖化などの環境やエネルギー問題の顕著化など，道路行政を取り巻く状況も，社会の要請の変化に対応しなくてはならなくなっております。

このような状況のもと，本市を含む北海道においては，広域分散型の地域生活経済圏や積雪寒冷といった特殊な地域性を有し，さらには全国に先行して，人口減少・少子高齢化が進行し，他地域にはない普遍的な課題を克服しながら，自然環境に恵まれた広大な国土を活かし，より安心して暮らせる豊かな地域社会を創造することが必要となっております。

このため地域間連携を強化し，さらなる地域の振興・発展を図るためには，高速道路をはじめとした高速交通体系の整備が急務であるとともに，これらと市街地を結ぶ幹線道路の整備や地域社会を支える生活道路の整備，バリアフリー対策事業，自転車通行環境の整備などが必要となっている状況にあります。

国においては，道路特定財源の一般財源化を決定しており，道路整備に対するニーズを踏まえ，その必要性を見極めて，真に必要な道路を計画的に整備を進める方針としておりますが，今後におきましても，広大な面積を有する北海道の地域特性を踏まえ，国や北海道の事業の推進をお願いするとともに，市町村事業に対しましても継続的支援をお願いするものです。

一方，道路等のインフラ整備については，高度経済成長時代を経て急速に進展したものでありますが，その多くが今後維持・修繕が必要な状況となり，多くの地方自治体の厳しい財政状況を圧迫することが予想されることから，社会基盤施設の維持管理に係り，さらなる国の財政支援制度を要望するものです。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

北海道函館市

○現状

函館市は、本州と北海道を結ぶ交通の結節点として、また、南北北海道における行政・経済・文化を支える中核都市として成長してきたが、函館山麓から函館駅を中心とする扇形状の地形的条件に加え、郊外部への市街地の拡散やモータリゼーションの進展などを要因として、幹線道路において慢性的な渋滞が発生するなど、市民生活に大きな影響を与えている。

また、平成16年に近隣の3町1村と合併をしたが、これらの地域間を結ぶ幹線道路については、海岸沿い特有の急傾斜地を通過し、異常気象時の被災や通行止めが頻発していることに加え、活火山「駒ヶ岳」の噴火による危険性が増大するなか、道路幅員が狭く歩道も未整備な現状にあり、日常生活に支障を来している。

さらに、本市を含む道南圏においては、第1次産業を基幹とする産業構造にあるが、人口減少や少子高齢化を背景に、産業を取り巻く環境は一段と厳しさを増し、地域社会の活力の低下を招いている。

○課題

◇高速交通体系の整備促進

高規格幹線道路ネットワークの整備は道内他地域に比べ非常に遅れており、道内他地域との交流、連携さらには経済の発展、そして高度な医療や福祉など都市的サービスを地域全体に発現させるため、できるだけ早期整備が必要である。

◇地域間交流道路の整備促進

平成16年に都市機能が集積した函館地域と漁業を基幹産業とする戸井、恵山、楡法華、南茅部地域が合併し、今後、一自治体として発展していくためには、市民の日常生活と地域の経済活動を支える唯一の手段となっている地域間を連結する道路整備が必要不可欠である。

◇高速交通体系に接続する都市圏内の幹線道路の整備

函館都市圏は6放射4環状の幹線道路網によって形成されているが、その中で重要な環状機能を有する外環状線は慢性的な渋滞が発生している状況にある。このような状況の下、6放射4環状の一翼を担う新外環状道路が自動車専用道路として整備が進められており、外環状線の渋滞緩和が期待されるところであるが、新外環状道路の整備効果を発現させ、また、都市内の交通環境の改善を図るためには新外環状道路に接続する都市内の幹線道路の整備による幹線道路網の形成が必要不可欠である。

◇都市圏内の恒常的な渋滞への対策

本市は、函館駅前を要とした扇状の地形的条件に加え、急速に拡大した市街化の影響により、都市圏内の道路網の整備が立ち遅れていることから恒常的な渋滞が市内各所で発生している状況にあり、市民生活・経済活動に大きな影響を与えている。特に冬期間は路面凍結などの要因が加わることで渋滞に拍車がかかり深刻な状態となっている。これらの問題を抜本的に解決するには、未だ整っていない都市圏内の幹線道路網の整備、交差点改良などの事業を推進することが急務となっている。

◇観光地における総合交通対策

本市は、年間約500万人程度の観光入り込み客数のある国内有数の観光地であり、観光産業は重要な基幹産業となっている。函館山の夜景、特別史跡五稜郭跡、異国情緒あふれる町並みと歴史的な建造物など優れた観光資源を数多く有し、観光シーズンには道内外から多くの観光客が訪れ交通混雑が発生しており、旅行者および地域住民の円滑な交通の確保を図るため、観光スポットと空港・駅などの交通拠点をつなぐ道路整備とともに、適切な情報の提供などのソフト施策を含めた観光地における総合交通対策の推進が必要となっている。

◇バリアフリー対策の推進

全国的に少子高齢化が進行するなか、本市における高齢化率は平成17年度の国勢調査で23.9%となっており、全国・全道と比較しても高い状況となっており、今後さらに高齢化が急速に進行することが自明であるなか、高齢化社会に対応したまちづくりの推進が急務となっている。特に日常の生活基盤となる道路については、高齢者ばかりでなく、障害者を含めた全ての道路利用者が安心して利用できるよう、一層の対策を講じていかなくてはならない状況となっている。

◇自転車交通環境の整備

本市においては、歩行者・自転車の安全な通行確保の観点から、これまで広幅員歩道を有する都市計画道路を中心に、自転車歩行者道のネットワーク化に努めてきたところであるが、自転車交通量の増加により接触事故等も発生している状況にあることから、自転車・歩行者の安全な通行環境の確保に対し、さらなる対応が必要となっている。

◇雪寒事業の推進

北海道は積雪寒冷という特殊な地域性を有しており、冬期間は道路の凍結や圧雪アイスバーンによるスリップの危険性の増大、吹雪による視界不良、車道有効幅員の減少などにより、夏期に比べ車両のスピードが低下することに伴い著しい渋滞を招き、市民生活および地域の経済活動に大きな影響を与えている。また、ツルツル路面による歩行者の転倒事故も多発しており、地域の安全安心の基礎となる道路除雪を始めとする雪寒事業の推進が必要不可欠となっている。

◇効率的な道路ストック管理の推進

道路の橋梁を始めとする多くの道路構造物は、高度経済成長期にその多くが造られており、地域交通の安全性・信頼性を確保するため、今後、老朽化に伴う点検や補修の計画的・効果的な実施が必要となっている。

◇シーニックバイウェイなどの道路景観を軸とした活動の促進、観光の支援

「函館・大沼・噴火湾ルート」は平成18年11月にシーニックバイウェイ北海道のルート指定を受けており、地域の活動団体がお互いに協力しながら道路景観を軸とした活動を展開していく取り組みが本格化している。

道路の景観形成や地域の活動を促進する活性化の取り組みについては、今後の広域観光や地域づくりに欠くことのできない政策となっており、道路整備が観光に果たす役割はより大きなものとなっている。

今後は、道路利用者の快適で安全な道路交通の確保はもちろん、道路緑化をはじめ周辺の景観形成、観光情報の適切な提供などソフト面を含めた総合的なドライブ支援が重要となってくるものである。

また、近年は外国人観光客も増加しており、多言語情報提供などの多様化したホスピタリティの向上も求められている。

◇市道の整備

市道は日常生活を支えるうえで重要な社会資本であり、国道・道道を相互に連絡し、また地域におけるコミュニティを相互に結びつけ、居住空間を構成すると同時に、公民館、学校、病院、工業団地、市場等の公共公益施設等の機能を効率的に発揮させるために欠くことのできないものであるが、本市では近年の厳しい財政状況の中で、年々道路事業費の削減を余儀なくされ、市道整備の進捗に支障を来している。

今後の道路行政についての意見・提案

②-2 地域の目指すべき将来像

北海道函館市

本市は我が国最初の貿易港として、いち早く海外に門戸を開き、また、北海道開発の拠点として本州と結ばれ、東洋と西洋、伝統と開拓など多様な文化が交わり、多くの人々が訪れるまちとして発展してきた。

かつてこの地は先人が異なる文化や訪れた多くの人々との交流を広げ、固有の文化を築きあげるとともに、教育や医療、福祉などさまざまな分野で共に手を携え協力し、まちの魅力をはぐくんできた地域で、その精神は今日まで連綿と引き継がれている。

いつの時代においても、このまちに暮らし、働き、学び、憩う、人々の一つひとつの営みと信頼の絆が、このまちをつくり、そしてこのまちの明日を開いてきた。

大きく変化するであろう21世紀の社会において、豊かな市民生活を実現し、魅力にあふれ個性豊かなまちづくりを進めていくためには、人と人のつながりや人・物・情報の交流を通じ、文化や産業をはぐくみ、世界と結び、新しい価値を生み出す地域社会を創造していく必要がある。

それは、市民一人ひとりが自由な発想と創意のもとで、生き生きと活動し、幸せで、明るく、活力に満ちた地域社会であると同時に、多くの人々が集い、交流の輪を広げ、お互いに助け支え合い、共に力をあわせて未来を切り開いていくまちであると考えている。

新たな時代に、そのような共通の願いを込め、「人が輝き まちが輝く 交流都市 はこだて」を本市の将来像とし、以下に定める施策の大綱により、その実現を図るものである。

(1) 心豊かな人と文化をはぐくむまち

だれもが生きがいを感じ、また、多様な文化や価値観とふれあい、豊かな人生を送ることができる地域社会を創造するとともに、時代を担い未来にはばたく人材の育成に努める「心豊かな人と文化をはぐくむまち」をめざす。

(2) 共に支えあい健やかに暮らせるまち

すべての市民がノーマライゼーションの理念のもと、共に支えあい、地域のなかで生き生きと安心して暮らせるとともに、市民一人ひとりが健康づくりに取り組み、心身共に健康な生活を送ることができる「共に支えあい健やかに暮らせるまち」をめざす。

(3) 快適で安らぎのある住み良いまち

中心市街地のにぎわいの創出をはじめ、住環境の整備や公共交通の充実、地域の情報化など、快適な生活環境の形成に努めるとともに、防災や交通安全・防犯対策を推進し、安全で安心な市民生活を実現する「快適で安らぎのある住み良いまち」をめざす。

(4) 環境と共生する美しいまち

環境に負荷の少ないライフスタイルへの転換を進め、持続可能な社会を構築するとともに、本市の美しい自然環境の保全と魅力ある景観の形成に努めるほか、水と緑にふれあえる空間の整備を進め、「環境と共生する美しいまち」をめざす。

(5) 活力にあふれにぎわいのあるまち

観光関連産業をはじめ、農林水産業や工業・商業の振興、さらには新しい産業の育成などにより、多様で層の厚い産業構造の形成に努め、地域経済の活性化を図るとともに、新幹線・高速自動車道・港湾・空港など陸・海・空の総合交通体系の整備を進め、「活力にあふれにぎわいのあるまち」をめざす。

今後の道路行政についての意見・提案

③ 道路施策の重点事項（代表事例，期待する評価等）

北海道函館市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・ 高速交通体系の整備促進	北海道縦貫自動車道，函館・江差自動車道，函館新外環状道路の整備促進	高速交通体系の確立，地域振興，産業振興，安全かつ円滑なモビリティの確保，物流効率化，地域プロジェクト支援，広域観光支援，三次医療機関へのアクセス向上，CO ₂ の削減	
・ 地域間交流道路の整備促進	一般国道278号（尾札部道路）道道函館南茅部線，道道元村恵山線	地域振興，産業振興，安全かつ円滑なモビリティの確保，物流効率化，広域観光支援，三次医療機関へのアクセス向上	
・ 高速交通体系に接続する都市圏内の幹線道路の整備	函館新外環状道路のインター線およびインター線につながる都市計画道路等の幹線道路の整備促進	地域振興，産業振興，安全かつ円滑なモビリティの確保，物流効率化，広域観光支援，渋滞緩和等交通環境の改善，CO ₂ の削減	
・ 都市内の恒常的な渋滞への対策	都市計画道路網の整備促進	安全かつ円滑なモビリティの確保，物流効率化，広域観光支援，渋滞緩和等交通環境の改善，CO ₂ の削減	
・ 観光地における総合交通対策	観光地周辺道路などの総合交通対策事業の推進	観光支援，安全かつ円滑なモビリティの確保，CO ₂ の削減	
・ バリアフリー対策の推進	道路のバリアフリー化の推進，電線類の地中化・無電柱化の推進	安全で安心できる暮らしの確保，歩いて暮らせるまちづくりの実現，高齢者や障害者等の社会参加の促進，子育てしやすい環境の形成	
・ 自転車通行環境の整備	都市計画道路網の整備促進，自転車通行環境整備モデル地区事業の推進，道路のバリアフリー化の推進	安全で安心できる暮らしの確保，歩いて暮らせるまちづくりの実現	

今後の道路行政についての意見・提案

③ 道路施策の重点事項（代表事例，期待する評価等）

北海道函館市

・雪寒事業の推進 ・効率的な道路ストック管理の推進 ・災害に強い道路の整備 ・シーニックバイウェイなどの道路景観を軸とした活動の促進，観光の支援 ・市道の整備	除雪費補助事業の拡充，雪堆積場設置に係る補助制度の確立 効率的な道路ストックの管理に関する国の支援制度の充実 災害に強い道路の整備（一般国道278号） 道路を軸とした観光振興・地域振興政策に対する国の支援充実 地方公共団体に対する道路整備財源の充実	冬期間における安全かつ円滑なモビリティの確保，安全で安心できる暮らしの確保，物流効率化 地域交通の安全性・信頼性の確保，既存ストックの有効活用 災害避難路の確保，安全で安心できる暮らしの確保，通行規制等の解消 広域観光支援，地域振興 安全で安心できる暮らしの確保，歩いて暮らせるまちづくりの実現，高齢者や障害者等の社会参加の促進，子育てしやすい環境の形成	
---	---	--	--